

◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料440円

第八回

1、字句「為欲廣異聞」  
形式半紙タテ使用。右に「為欲廣」、左に「異聞」と臨書し、左余白に落款「〇〇臨」と書き入れる。

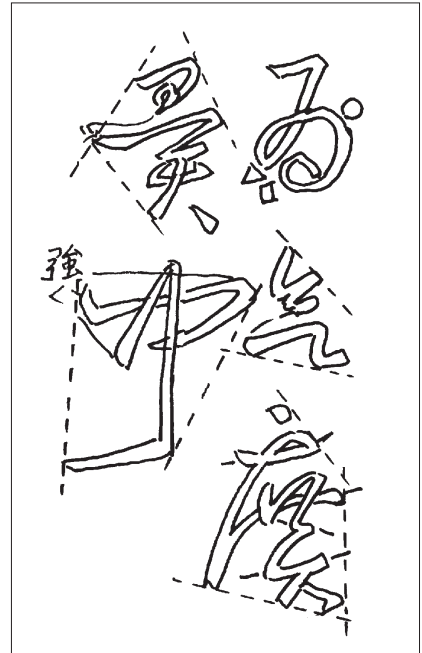
2、概観十七帖のほとんどは独草体で書かれています。冒頭の「都司馬帖」の二十六字には一字として連綿の箇所がありません。後半部に連綿が入ってきますが、二字連綿が大半です。しかし、十七帖では連綿線を用いなくても行の流れを充分に感じることが出来ます。

3、冒頭の「十七日先書都」は、隸意を含んだ筆意で「十七日」と書き、上の三字の字間より広めの空間をとって、少々頭でっかちに「先」が書かれ、その「先」の脚部に三角形の空間がでけると、「書」の一画目の縦画の頭を入れ、次の「都」を少し離し、最後の点で流れを完結させています。



4、各字のポイント

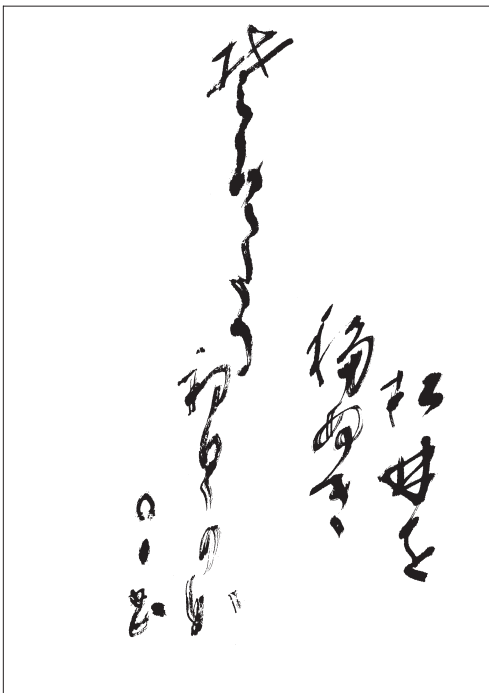
為 △で筆の裏面を、○で表面、□で再び裏面とする。  
欲 終画に点のようなものが見えるが、字典にこの点は見えないので省いた。この点があるとバランスが崩れると感じた。  
廣 二画目の横画は上に突き上げてかぶせ次画へ。横画四本あるが、全て方向・長さを変化させている。  
異 短い横画三本を右に寄せている。  
聞 起筆、転折で筆を強く突き、収筆も勢いよくハネ出す。



十七帖・王羲之

半紙課題(予告)

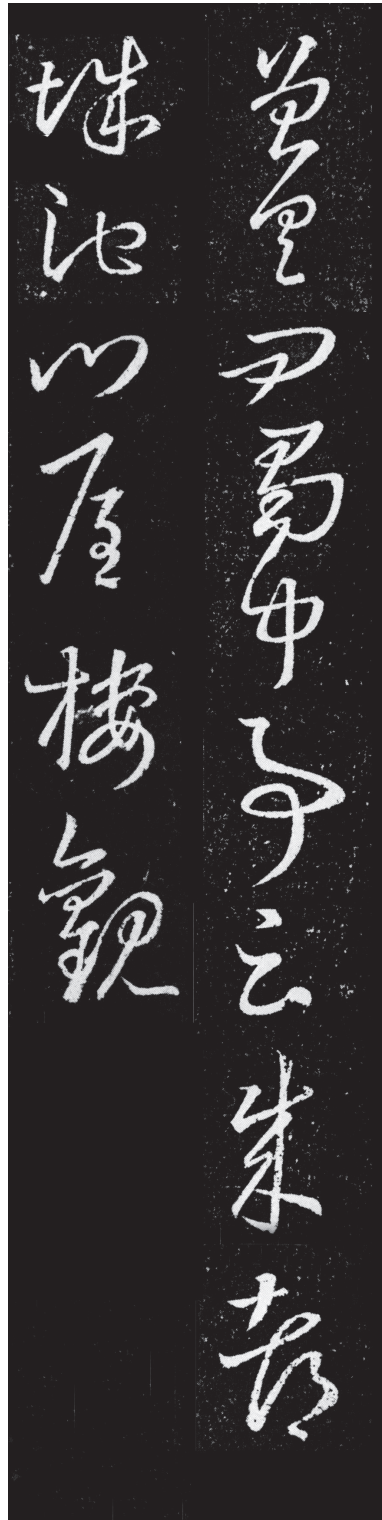
(一月二十二日締切)



訳：竹林の中の家から冬の夜の燈火がもれている。  
平岡華雪先生書 松林をいぬきそめたる初日かな(激浪)



平岡華雪先生書 寒燈竹屋の間。(賈島)



曾員問蜀中事。云成都城池。門屋樓觀。

（往に都に在りて、諸葛頭に見え）曾て具に蜀中の事を問ひしに、成都の城池・門屋・樓觀は、（皆な是れ秦時の司馬錯の脩めし所なりと云う。）

（現代語訳）（以前、都におりました時、諸葛頭に会い）蜀中の事について種々お尋ねした所、成都の城壁や濠、城門や建物、高樓などは（すべて秦の時代に司馬錯が築き上げたものであるとのお話でした。）

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご利用下さい。抜粋可。

随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。

バーコード券に「条臨」とご記入下さい。名簿は条幅部で「（臨）」と表示されます。

（天来書院）

一字書（十二月二十二日締切）

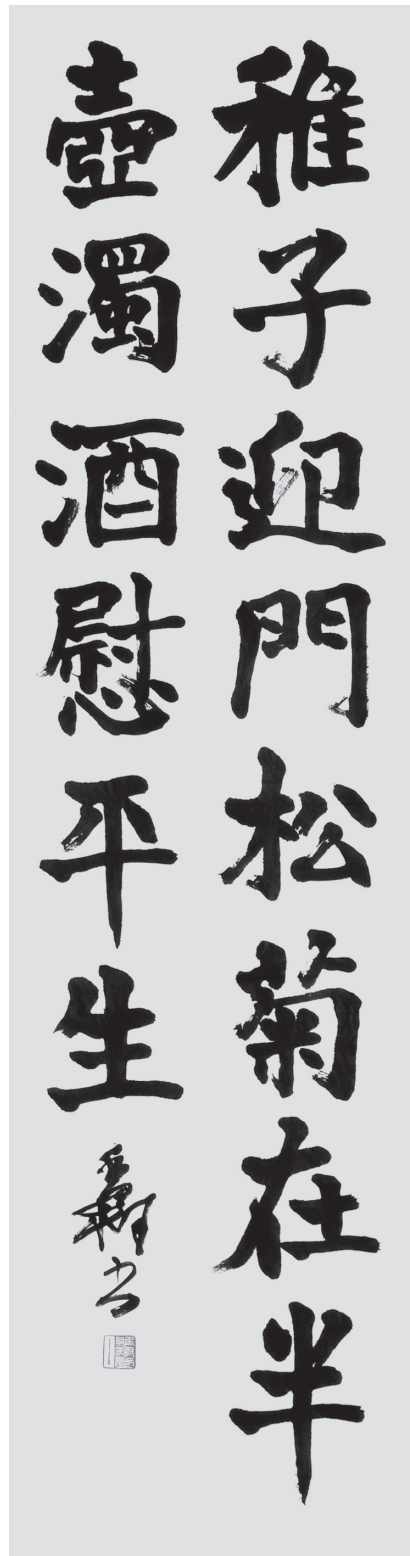
課題

媛

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に  
一字と記入 段級は無記入

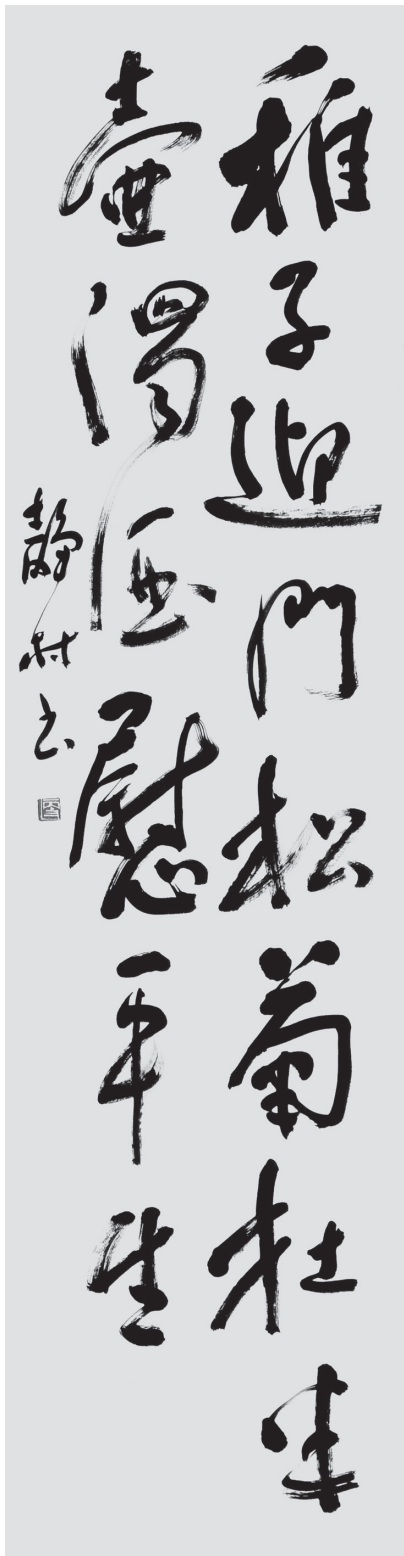
A 高橋香樹会長書

稚子迎門松菊在 半壺濁酒慰平生 (趙孟頫)  
 稚子門に迎え松菊在り。半壺の濁酒、平生を慰む。



B 鈴木静村先生書

半年に一度は楷書作をと思い、今回、楷書作としました。楷書は色々臨書してきましたが、楷書というとなんか堅さを取りたいとの思いから、このような楷書となりました。今、一番気楽に書けるのがこの形です。やはり、堅くなってしまうので何とか



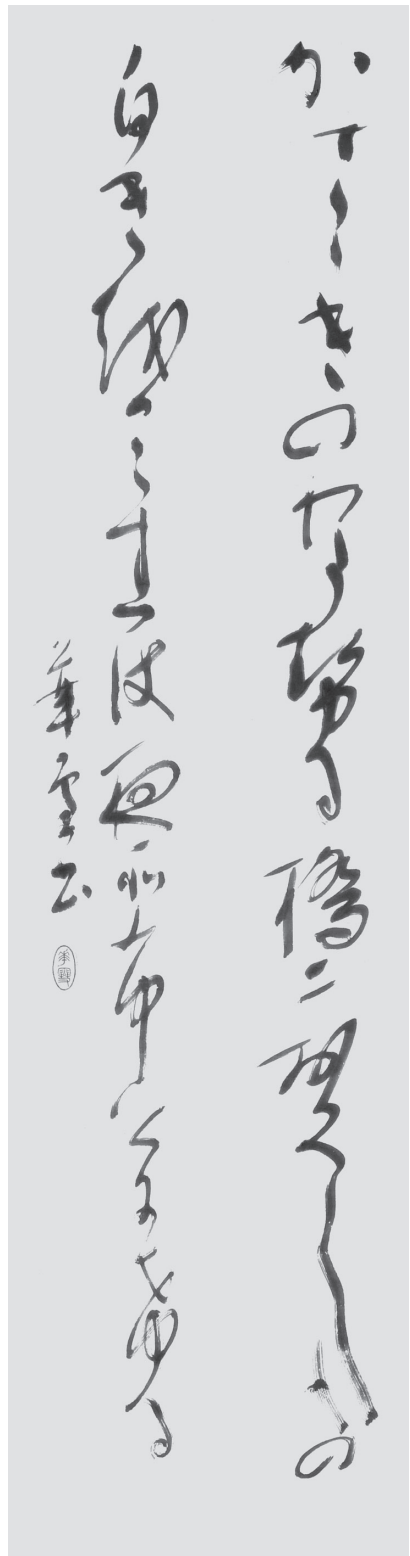
稚 一画目の入筆に強さを、右寄り過ぎの感、やや左が適切。門 行書はこの形が多い。松 偏の大きいのは王鐸が表出。菊 墨継ぎ。在 異体字。三画目は二画の右に突き出す、才。濁酒 偏に変化を。慰 墨継ぎ、頭でっかち形。平 縦画に味がほしい。生 終画は間をおいてキリッとしめる。

予告 (一月二十二日締切) 來過竹里館 日與道相親 出入惟山鳥 幽深無世人 (裴迪)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

A  
平岡華雪先生書

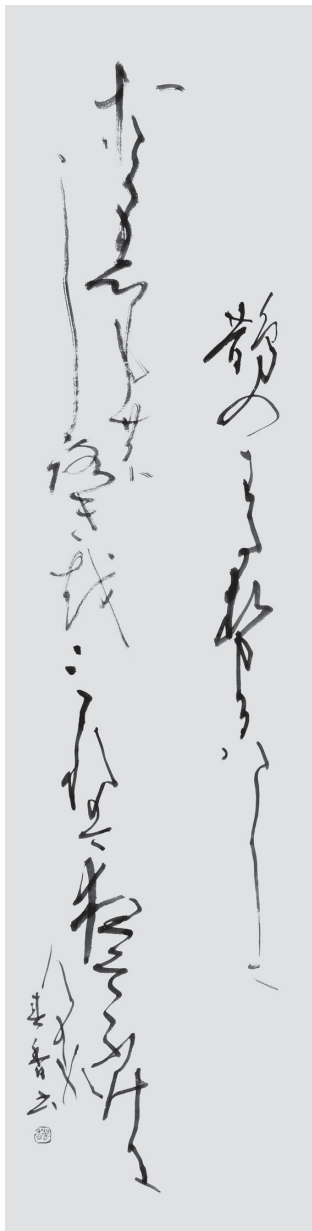
かさゝぎのわたせる橋におく霜の白きを見れば夜ぞふけにける (新古今和歌集 中納言家持)  
かさゝぎのわ多勢る橋におくしもの白き越三連は夜所布介尔希る



B

石原春香先生書

かさぎの王多勢る八し二於く志も農し路き越三れ盤夜ぞふけ介類



大伴家持：奈良時代の公卿・歌人。大納言大伴旅人の子。三十六歌仙の一人。波瀾の万葉歌人と言われ、その人生は左遷と昇進の繰り返しであった。優美で繊細な歌風。どの歌人よりも多くの作品を「万葉集」に収めています。

学び方

歌意：かささが渡したという天の川の橋のように見える宮中の階段。その上におりた真っ白い霜を見ると夜も更けたのだなあ。  
「鶴」の文字が好きで漢字で書いてみました。白霜のおりた橋、まわりの静けさを「夜ぞふけ介」に「介類」を添えるように表現してみました。作品づくりは歌の意、情景をおもいうかべながら書くといいです。

予告 (二月二十二日締切)

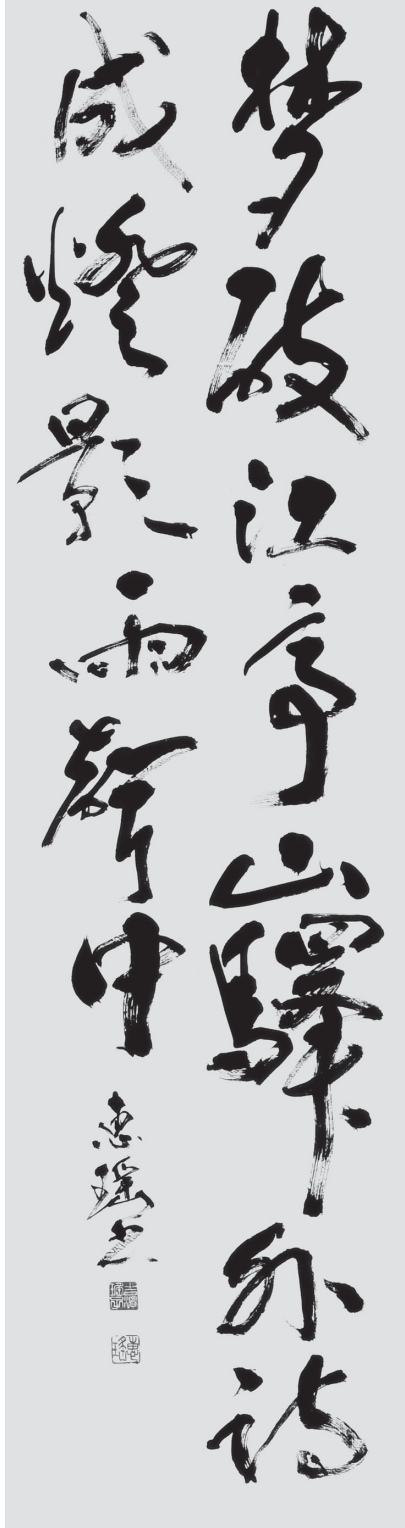
鳥のこゑ松の嵐のおともせず山しづかなる雪の夕ぐれ (風雅和歌集 永福門院)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み (1) と記入する。)
  - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み ( ) に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部随意参考（創作部門最優秀作品）

惠華 吉濱 惠瑶

夢破江亭山驛外 詩成燈影雨聲中（陸游）  
 夢は破る江亭山驛の外、詩は成る燈影雨声の中。



訳：夢から突然さめると、見ていたのは河のほとりのはたごや山の中の宿屋から見た景色。詩心が湧きおこるのは、ともしびがほのかに揺れ、雨垂れの音を聞いている時。

惠苑 清水 幸子

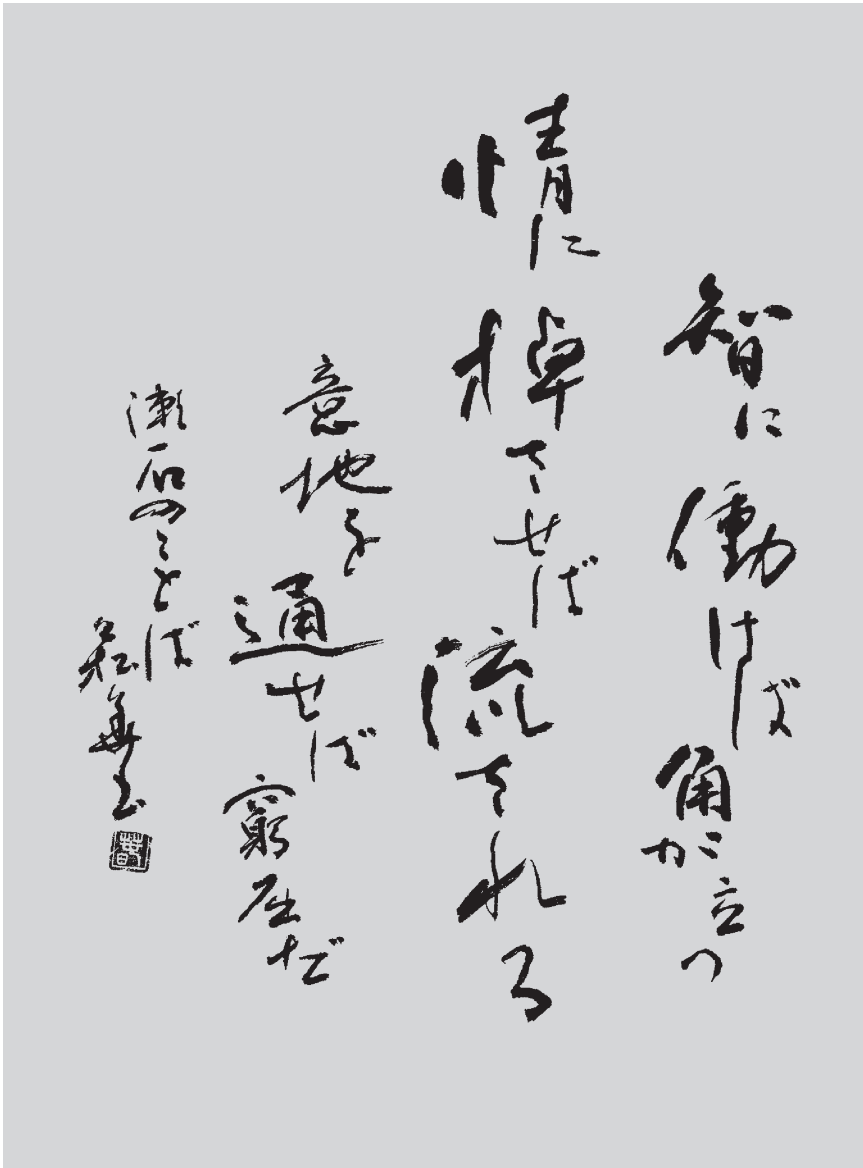
秋立つや川瀬にまじる風の音（飯田蛇笏）  
 秋立つや川瀬二まじる可勢の於と



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
  - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）
- ※創作部門最優秀作品は随意部参考手本として掲載します。

小暮 崧華 先生 書

智に働けば角が立つ  
情に棹させば流される  
意地を通せば窮屈だ  
(夏目漱石)



今回は漱石の『草枕』の冒頭の一節を、三行に書いてみました。  
・多字数なので平板にならないよう文字の大小、太細に変化を。  
・三行の各行を更に二つに分け、寄り添わせながら一行としました。

夏目漱石（一八六七—一九一六）東京新宿区生れ。東京帝大文学部卒。新聞記者、教員を経て、イギリスに留学三年。言文一致の書きことばを作った近代日本文学者の一人。余裕派、高踏派ともいわれる。  
胃病に悩まされながら、『明暗』執筆中に四十九才で死去。作品『吾輩は猫である』『坊ちゃん』『三四郎』『草枕』等多数。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料550円。

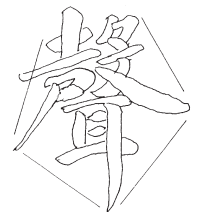
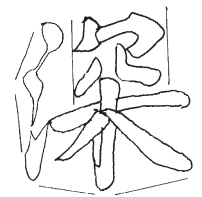
①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

山深くして鳥聲無し(王維)  
訳：鳥の声もしない深山の中。

〈詳しくは字典〉  
 「深」字、旁「元」小さく、「木」  
 大きい形、古典に多い。  
 「聲」『爿』るまた、ほこづくり  
 この形も多い。字典で調べを。

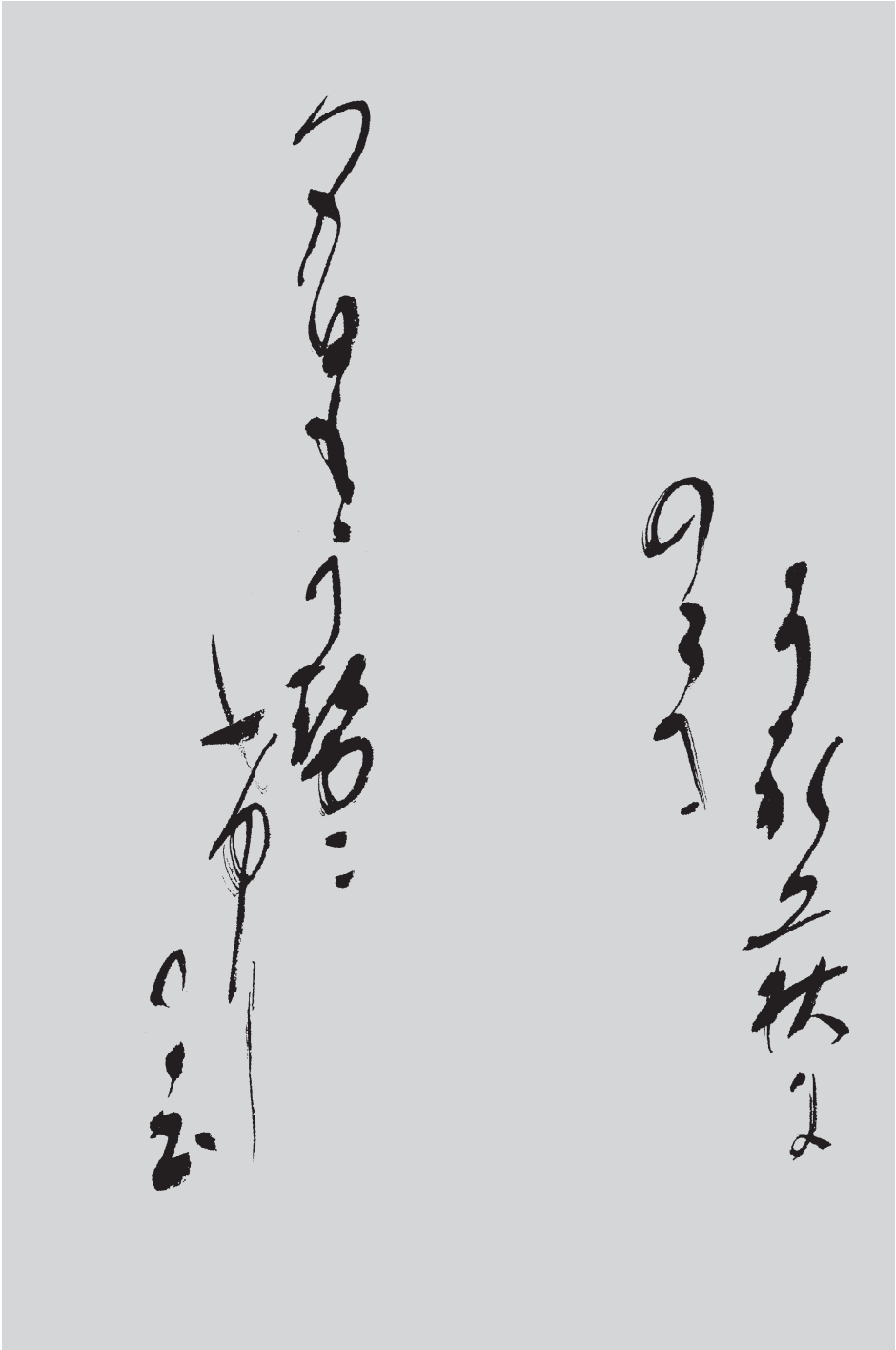


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

- ①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

枯れ萩に残る夕日もうせにけり (山龍)  
可礼萩<sup>かれはぎ</sup>のこる夕日<sup>せひけ</sup>もうせにけり



〈自得するまで〉

「可」は「う」と似ていますが、筆意がちがいます  
(下記図版参照)。特に、二画目は鋒先を包み込む筆意、  
ここがポイント。二行目「のこる」について、特に初  
歩段階にとって、この筆意を習得してほしい。



◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

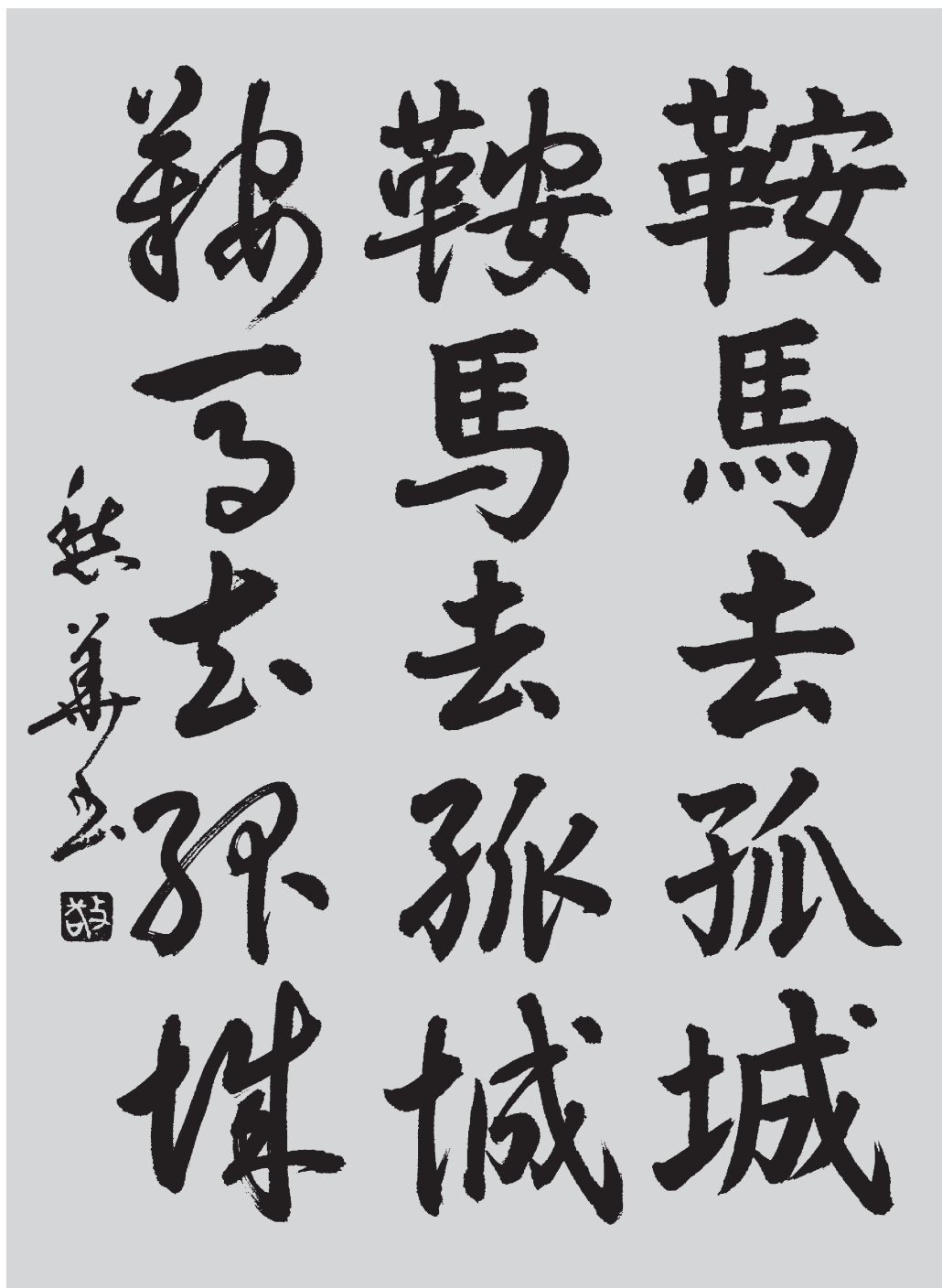
- ①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



楷、行、草、三 体 参 考

石田愁華先生書

鞍馬去孤城（杜甫）  
鞍馬あま 孤城こじょう を去る



訳：君の乗る馬は、ぼつんと孤立したこの町を立ち出でて行く。

1. 随意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は460円。

随 意 部 参 考

水貝潮華先生書

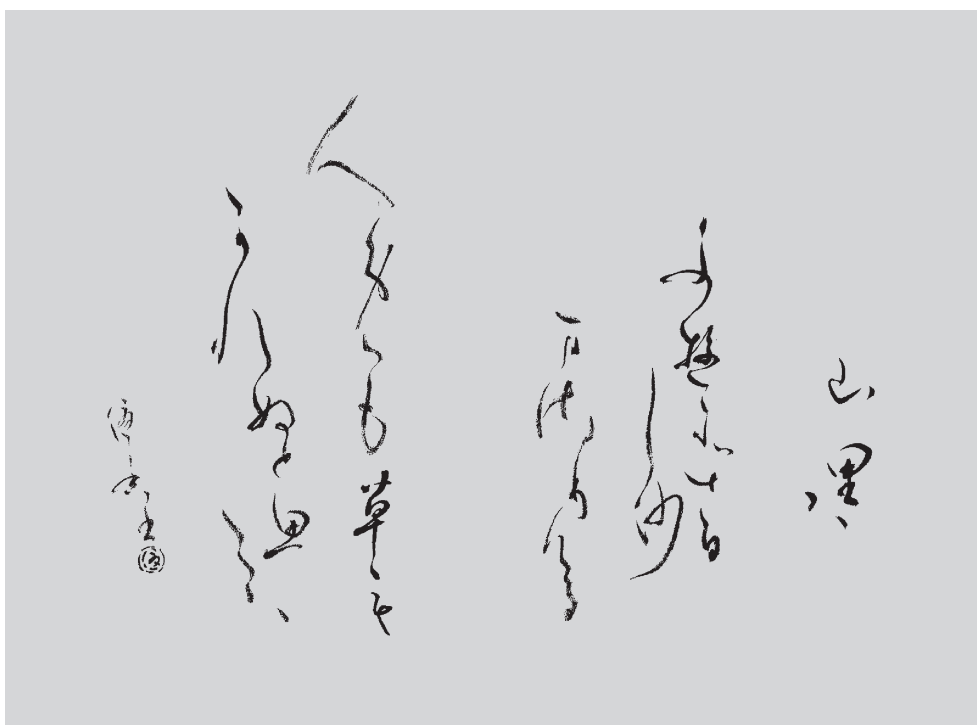
凛嚴りんげん  
凛嚴りんげん  
(李賀)



訳：けわしくきびしいこと。

本澤優香先生書

山里やまのさとは冬ぞさびしさまさりける人目も草もかれぬとおもへば  
山里八不遊所さ日し沙方佐利介る人免も草毛可れぬと思部八  
(源宗于朝臣)



1. 随意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は460円

稲畑 曄 穂 先生書

石原 春香 先生書

課題 2 (初段格以下)

課題 1 (初段以上)

美術の分野と同様に、文学の分野でも  
魂によって仕事をしていると  
思われる。  
芸術家たちに私はもっとも共鳴する。

道は非凡をおびるところになくして、  
平凡を行ずることにある。漸々修学  
から一超直入が生まれるのである。  
飛躍の母胎は沈潜である。

課題 1 (初段以上)

道は非凡を求むるところになくして、  
平凡を行ずることにある。漸々修学  
から一超直入が生まれるのである。  
飛躍の母胎は沈潜である。  
(種田山頭火)

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。  
ペンまたはボールペン(黒色)  
を使用のこと。青インクは不可。
- (2) 段級欄は本人が記入(色は黒)  
はじめて出品される方は私製の  
紙(3×4 cm位) 次の4項目  
を記入して作品左下隅に貼って  
出品して下さい。①硬筆部②支  
部名または都道府県名③氏名ま  
たは雅号④新
- (3) 会員は無料・会員外は四六〇円
- (4) 会員は無料・会員外は四六〇円
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題 2 (初段格以下)

美術の分野と同様に、文学の分野で  
も魂によって仕事をしていると  
思われる芸術家たちに私はもっとも共鳴  
する。  
(ゴッホ)